薬剤部からのお知らせ 2019 No.29

２０２０年９月８日発行

医薬品の採用・中止・変更について　－2020 年 9 月 3 日薬事委員会結果報告－

❶院内新規試用医薬品

医薬品名（成分名）	薬品分類
エンレスト錠 100mg（サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物）	慢性心不全治療剤
オンジェンティス錠 25mg（オピカポン）	パーキンソン病治療剤
トリンテリックス錠 10mg（ボルチオキセチン臭化水素酸塩）	抗うつ剤
ロケルマ懸濁用散分包 5g（ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物）	高カリウム血症治療剤
PA・ヨード点眼・洗眼液 20mL（ポリビニルアルコール、ヨウ素）	洗眼殺菌剤
ダラザレックス点滴静注 100mg（ダラツムマブ）	抗悪性腫瘍剤
ダラザレックス点滴静注 400mg（ダラツムマブ）	抗悪性腫瘍剤
ルムジェブ注ミリオペン HD（インスリンリスプロ）	インスリン製剤

⇒　2020 年 9 月 15 日より処方開始の予定です。

❷製剤変更医薬品

変更前医薬品名 ⇒ 変更後医薬品名	薬品分類
ヒューマログ注ミリオペン ⇒ インスリンリスプロ BS 注ソロスターHU「サノフィ」	インスリン製剤
ビムパット点滴静注 200mg ⇒ ビムパット点滴静注 100mg	抗てんかん剤
フォルテオ皮下注キット 600μg ⇒ テリパラチド BS 皮下注キット 600μg「モチダ」	骨粗鬆症治療剤

⇒　旧製剤の在庫がなくなり次第、変更とします。

❸院内採用中止医薬品

医薬品名（成分名）	薬品分類
アルケラン錠 2mg（メルファラン）	抗悪性腫瘍剤
カリエードプラス散（分包）96.7% （ポリスチレンスルホン酸カルシウム）	高カリウム血症治療剤
カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム散 10%「日医工」 （カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム）	止血剤
トレドミン錠 25mg（ミルナシプラン塩酸塩）	セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤
ルジオミール錠 10mg（マプロチリン塩酸塩）	四環系抗うつ剤
アピドラ注ソロスター（インスリングルリジン）	インスリン製剤
キシロカイン注ポリアンプ 0.5% 10mL（リドカイン）	局所麻酔剤

⇒　院内の在庫がなくなり次第中止とします。

❹院外採用中止医薬品

医薬品名（成分名）	薬品分類
イブランスカプセル 25mg（パルボシクリブ）	抗悪性腫瘍剤
イブランスカプセル 125mg（パルボシクリブ）	抗悪性腫瘍剤
ツムラ桂枝加芍薬大黄湯エキス顆粒	漢方製剤
セロクエル 25mg 錠（クエチアピンフマル酸）	抗精神病剤
セロクエル 100mg 錠（クエチアピンフマル酸）	抗精神病剤
タフィンラーカプセル 50mg（ダブラフェニブメシル酸塩）	抗悪性腫瘍剤
ドラール錠 15mg（クアゼパム）	ベンゾジアゼピン系催眠鎮静剤
パナルジン錠 100mg（チクロピジン塩酸塩）	抗血小板剤
ベシカムクリーム 5%（イブプロフェンピコノール）	非ステロイド性鎮痛消炎剤
メキニスト錠 0.5mg（トラメチニブ）	抗悪性腫瘍剤
リスミー錠 1mg（リルマザホン塩酸塩水和物）	ベンゾジアゼピン系催眠鎮静剤
エスクレ坐剤 250mg（抱水クロラール）	催眠・鎮静剤
エスクレ坐剤 500mg（抱水クロラール）	催眠・鎮静剤
ミケラン点眼液 1%（カルテオロール塩酸塩）	緑内障治療剤

⇒　在庫がなくなり次第中止としますが、最終を 2020 年 12 月 31 日とします。

【院内新規試用医薬品】

（サクビトリルバルサルタン水和物）

▶エンレスト錠 100mg

Entresto　100mg/錠　〔ノバルティス〕

〔薬価〕115.2 円/錠

【効】慢性心不全（ただし、慢性心不全の標準的な治療を受けている患者に限る）

【用】（**内**）1 回 50mg を開始用量として 1 日 2 回投与する。2～4 週間の間隔で段階的に 1 回 200mg まで増量する。1 回投与量は 50mg、100mg 又は 200mg とし 1 日 2 回投与する。

（オピカポン）

▶オンジェンティス錠 25mg　劇

Ongentys　25mg/錠　〔小野〕

〔薬価〕972 円/錠

【効】レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩との併用によるパーキンソン病における症状の日内変動（wearing-off 現象）の改善

【用】（**内**）25mg を 1 日 1 回、レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩の投与前後及び食事の前後 1 時間以上あけて投与する。

（ボルチオキセチン臭化水素酸塩）

▶トリンテリックス錠 10mg　劇

Trintellix　10mg/錠　〔武田〕

〔薬価〕168.9 円/錠

【効】うつ病・うつ状態

【用】（**内**）10mg を 1 日 1 回投与する。患者の状態により 1 日 20mg を超えない範囲で適宜増減するが、増量は 1 週間以上の間隔をあけて行うこと。

（ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物）

▶ロケルマ懸濁用散分包 5g

Lokelma　5g/包　〔アストラゼネカ〕

〔薬価〕1,095.2 円/包

【効】急性及び慢性腎不全に伴う高カリウム血症

【用】（**内**）開始用量として 1 回 10g を水で懸濁して 1 日 3 回、2 日間投与する。最長 3 日間まで投与できる。以後は、1 回 5g を水で懸濁して 1 日 1 回投与する。最高用量は 1 日 1 回 15g までとする。

血液透析施行中の場合には、通常、1 回 5g を水で懸濁して非透析日に 1 日 1 回投与する。最高用量は 1 日 1 回 15g までとする。

▶ PA・ヨード点眼・洗眼液

PA・IODO（0.2%）20mL/本　〔日本点眼薬〕

〔薬価〕22.5 円/mL

〔貯法〕冷所

1 本（20mL）中：	
ヨウ素	40mg
ポリビニルアルコール	1600mg

【効】角膜ヘルペス、洗眼殺菌

【用】（**外**）生理食塩液で 4～8 倍に希釈して用いる。

（ダラツムマブ（遺伝子組換え））

▶ダラザレックス点滴静注 100mg　劇

Darzalex　100mg/5mL/V　〔ヤンセン〕

〔薬価〕52,262 円/瓶

▶ダラザレックス点滴静注 400mg　劇

Darzalex　400mg/20mL/V

〔薬価〕187,970 円/瓶

〔貯法〕遮光、2～8℃

【効】多発性骨髄腫

【用】（**注**）他の抗悪性腫瘍剤との併用において、1 回 16mg/kg を、併用する抗悪性腫瘍剤の投与サイクルを考慮して、以下の A 法又は B 法の投与間隔で点滴静注する。

A 法:1 週間間隔、2 週間間隔及び 4 週間間隔の順で投与する。

B 法:1 週間間隔、3 週間間隔及び 4 週間間隔の順で投与する。

（インスリン リスプロ（遺伝子組換え））

▶ルムジェブ注ミリオペン HD　劇

Lyumjev　300 単位/3mL/本　〔日本イーライリリー〕

〔薬価〕1,400 円/キット

〔貯法〕禁凍結、2～8℃

【効】インスリン療法が適応となる糖尿病

【用】（**注**）1 回 2～20 単位を毎食事開始時に皮下注射するが、必要な場合は食事開始後の投与とすることもできる。維持量としては 1 日 4～100 単位である。

【製剤変更医薬品】

（インスリンリスプロ（遺伝子組換え））　㊚㊛

▶インスリンリスプロ BS 注ソロスターHU「サノフィ」300 単位

Insulin Lispro　300 単位/3mL/本　〔サノフィ〕

〔薬価〕1,258 円/キット

〔貯法〕遮光、2～8℃

【効】インスリン療法が適応となる糖尿病

【用】（注）1 回 2～20 単位を毎食直前に皮下注するが、ときに投与回数を増やしたり、持続型インスリン製剤と併用したりすることがある。持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は1 日 4～100 単位である。

（ラコサミド）

▶ビムパット点滴静注 100mg　㊛

Vimpat　100mg/V　〔第一三共〕

〔薬価〕2,459 円/瓶

【効】一時的に経口投与ができない患者における、下記の治療に対するラコサミド経口製剤の代替療法:てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）

【用】（注）ラコサミドの経口投与から本剤に切り替える場合：ラコサミド経口投与と同じ 1 日用量及び投与回数にて、1 回量を 30 分から 60 分かけて点滴静脈内投与する。

ラコサミドの経口投与に先立ち本剤を投与する場合：

〔成人〕1 日 100mg より投与を開始し、その後 1 週間以上の間隔をあけて増量し、維持用量を 1 日 200mg とするが、いずれも 1 日 2 回に分け、1 回量を 30 分から 60 分かけて点滴静脈内投与する。症状により 1 日 400mg を超えない範囲で適宜増減するが、増量は 1 週間以上の間隔をあけて 1 日用量として 100mg 以下ずつ行う。

〔小児〕4 歳以上の小児には 1 日 2mg/kg より投与を開始し、その後 1 週間以上の間隔をあけて 1 日用量として 2mg/kg ずつ増量し、維持用量を 30kg 未満の小児には 1 日 6mg/kg、30kg 以上 50kg 未満の小児には 1 日 4mg/kg とする。いずれも 1 日 2 回に分け、1 回量を 30 分から 60 分かけて点滴静脈内投与する。4 歳以上の小児のうち 30kg 未満の小児には 1 日 12mg/kg、30kg 以上 50kg 未満の小児には 1 日 8mg/kg を超えない範囲で適宜増減するが、増量は 1 週間以上の間隔をあけて 1 日用量として 2mg/kg 以下ずつ行う。50kg 以上の小児では、成人と同じ用法・用量を用いること。

（テリパラチド（遺伝子組換え））　㊚

▶テリパラチド BS 皮下注キット 600μg「モチダ」

Teriparatide BS /2.4mL/本　〔持田〕

〔薬価〕25,643 円/キット

〔貯法〕遮光、2～8℃

【効】骨折の危険性の高い骨粗鬆症

【用】（注）1 日 1 回 20μg を皮下注射する。本剤の投与は 24 ヵ月間までとすること。